

英語教育における小中連携 ー楽しい活動から豊かな表現へー

上萩 琴美 (KAMIHAGI Kotomi)

那賀町立相生中学校

要約

公立小学校では 2011 年 4 月から新学習指導要領が完全実施され、高学年において外国語活動が始まるが、これに先駆けて相生中学校区（相生小学校・相生中学校）では 2009 年度より文部科学省の「教育研究開発事業」の指定を受け、教育課程の枠にとらわれずに第 1 学年から週 1 単位時間の外国語活動を実施している。

本報告は、この 2 年間外国語活動を実施する中で培われた成果と、見えてきた今後の課題をまとめたものである。小学校低・中・高学年および中学校の系統性を考えたカリキュラム開発と教育実践を報告するとともに、児童・生徒のアンケート結果についても公表し、いよいよ始まる小学校高学年における外国語活動への示唆を提示する。

(キーワード：小学校外国語活動，カリキュラム開発，小中連携)

1. はじめに

2011 年 4 月に新学習指導要領が完全実施となり、いよいよ小学校高学年において外国語活動が始まる。

相生中学校区では、2009 年度には文部科学省指定「英語教育改善のための調査研究事業」を、2010 年度からは「教育研究開発事業」を受け、小学校外国語活動・中学校英語教育の研究に取り組んでいる。この研究開発事業（英語）には「教科型」と「外国語活動型」があり、その開始学年も様々であるが、相生小学校では「外国語活動型」の英語活動を第 1 学年から週 1 時間実施することとなり、低・中・高学年の系統性はもちろん、中学校英語教育との連携を考えたカリキュラム開発や授業実践に取り組んでいる。また、この外国語活動を経験した生徒が今年度から入学してきている相生中学校では、小中のスムーズな接続を意識した授業について模索している。

ここでは、昨年度から 2 年間取り組んできた、小学校における低・中・高学年の系統性、小中連携を考えた外国語活動カリキュラムと授業実践、中学校第 1 学年における授業の実践事例について報告する。

2. 研究主題

小学校外国語活動の目的は英語力をつけることではない。「聞くこと」「話すこと」を中心とした外国語活動を通して、言葉で人とやりとりする楽しさを味わい、お互いを理解するための言葉の大切さがわかる児童を育てるために行うものであると考える。そこで、そのための効果的指導方法について研究することとなった。

外国語活動の目標には3つの大きな柱がある。1つ目は言語や文化についての体験的な理解、2つ目は積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成、そして3つ目の柱は外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しむことである。本校区では、この3つの柱のうち小（外国語活動）、中・高（英語教育）と一本につながっている「積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成」に着目し、研究主題を次のように設定した。

【研究主題】

系統性をふまえ、英語でコミュニケーションを図ろうとする児童生徒の育成
ー楽しい活動から豊かな表現へー

現在、相生小学校の外国語活動は、学級担任、中学校英語教師、外国語活動支援講師とALTが協力して行うという恵まれた指導体制をとっているが、この教育研究開発事業終了後の2012年度には担任主導になる。そこで、担任主導型になるまでの移行期間において、楽しい活動から豊かな表現力へとつなげるための効果的指導方法についても研究を深めたいと考えた。

さらに、この外国語活動を受けての中学校における英語教育のあり方を探り、豊かな表現力を目指した小中の連携について研究を進めることにした。

3. 研究組織

研究を進めるにあたって、初めに「小・中連絡協議会」を立ち上げた。これは小学校・中学校それぞれの「推進委員会」から構成され、その中心に中学校英語教師である「英語教育コーディネーター」が位置し、小学校外国語活動・中学校英語教育の双方に関わり、まとめ役や調整役としての仕事を請け負うことにした。この「小・中連絡協議会」は学期に1度の割合で開催され、年度初めには組織の編成や年間計画の立案、中間期には見直し、年度末には振り返りとまとめを行い、スムーズな研究推進を心がけている。また、小学校では低・中・高学年部会のそれぞれに全職員を配属し、同一歩調で研究を進めることにした。図1は、この研究組織をまとめたものである。

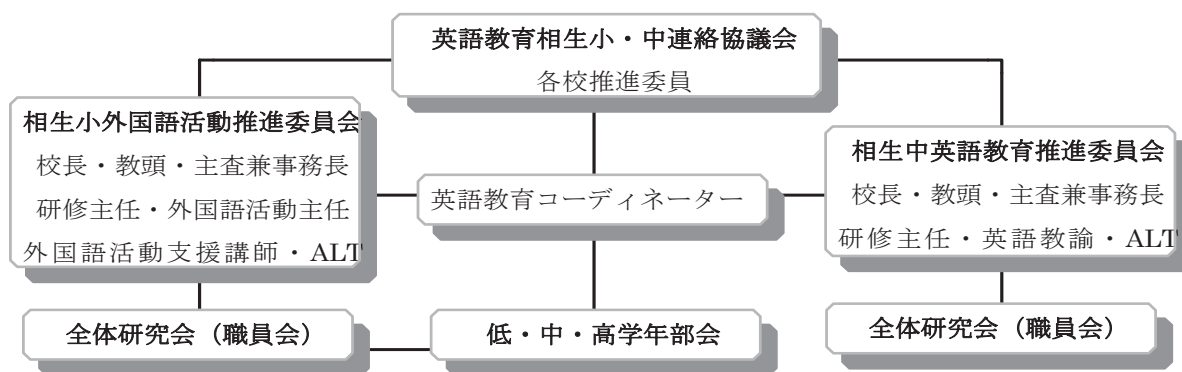


図1 研究組織

4. 研究の方法

(1) 2009年度

①小学校

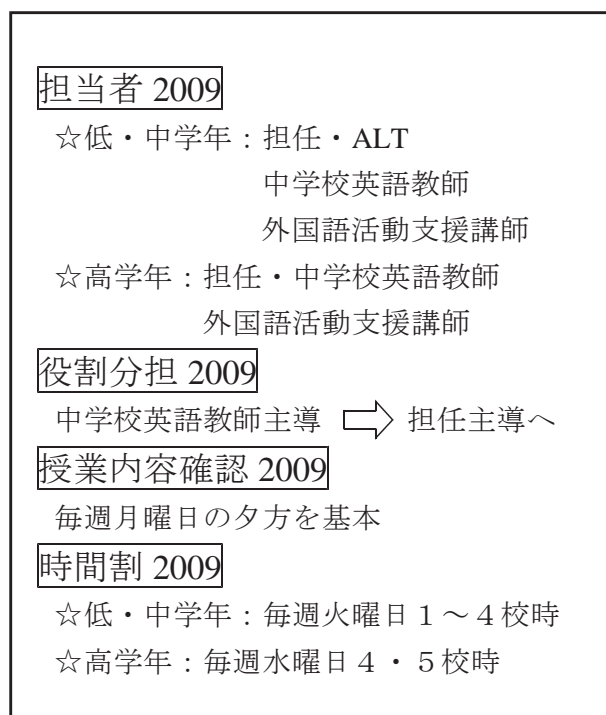


図2は2009年度の研究方法を示したものである。

本校区のALTは6校を兼務しているため、その勤務校は曜日毎に変わり、月曜日が相生中学校、火曜日の午前中が相生小学校での勤務となっている。

2009年度は、このALTの勤務（火曜日の午前中）に合わせて低学年と中学年にALTを配置し、4人体制で授業を行った。しかし、午前中4時間授業をした後、午後に別の小学校へ移動して2時間授業をするALTの勤務がハードであること、大人数での指導が複雑で、役割分担が難しいなどの課題が出てきた。また、月曜日の連絡協議会での授業内容の確認もハッピーマンデー制度のため飛びやすいという問題も残った。

図2 2009年度の研究方法

役割分担では、初年度は中学校英語教師主導で年間計画や授業案を考えることにした。中学校英語教師は、『英語ノート』等の補助教材の研究に努め、その単元で使用する英語表現等を考え提案し、月曜日の連絡協議会で授業内容を確認することにした。そして1年間をかけて徐々に小学校学級担任による授業へとシフトしていくよう計画した。

②中学校

中学校では、前述のように 2009 年度は小学校外国語活動に深く関わり、小中の連携を模索しながら中学校英語教育の授業研究を進めた。

- ・ 小学校外国語活動との接続を意識した授業の組立
 - ・ 4 技能の統合を考えた授業展開
- } 授業改善に向けての研究授業
・ 授業研究会

③小中共通

研究の一環として、「小学校での外国語活動の有無が中学校入学時に及ぼす心的影響調査」や「児童・生徒、保護者の興味・関心や期待、満足度調査」のアンケートを実施し、児童・生徒の実態把握、保護者への啓発などに努めることにした。また、地元那賀高校との中高一貫指定事業を生かし、小中高連携異文化交流祭にも取り組むことにした。

(2)2010 年度

①小学校

担当者 2010

- ☆低学年：担任・ALT
中学校英語教師
- ☆中学年：担任
外国語活動支援講師
- ☆高学年：担任・中学校英語教師
外国語活動支援講師

役割分担 2010

担任主導（中学校英語教師はサポート）

授業内容確認 2010

毎週金曜日の夕方

時間割 2010

- ☆低学年：毎週火曜日 2・3 校時
- ☆中学年：毎週木曜日 2・3 校時
- ☆高学年：毎週水曜日 3・4 校時

図 3 2010 年度の研究方法

図 3 は、2010 年度の研究方法を示したものである。

2010 年度は 2009 年度の課題を基に、児童の発達段階等をも考慮し、英語の「音」や異文化を抵抗なく受け入れることのできる低学年に ALT を配置し、中学校英語教師が入るようにした。ALT が中学校勤務の月曜日に、ある程度計画を練っておき、打ち合わせがスムーズに進むように計画した。

そして中学年には外国語活動支援講師が、高学年には中学校英語教師と外国語支援講師が入り研究を進めていった。

授業は完全に担任主導型となり、中学校教師はサポートに回った。連絡協議会は金曜日の夕方に実施し、検討する授業の指導案や教材・教具についての話し合いも担任中心に進めるようになった。

②中学校

中学校では、昨年度 1 年間外国語活動を経験した生徒が入学して来ることから、昨年度のように小学校外国語活動に関わるだけでなく、中学校英語教育に比重を置いた研究を進めることが求められた。

- ・ 小学校外国語活動との接続を意識した授業の組立
 - ・ 4 技能の統合を考えた授業展開
 - ・ リスニング力、英語力調査
- } 授業改善に向けての研究授業
・ 授業研究会

③小中共通

2009 年度と同じ 2 つのアンケートに文部科学省からのアンケート調査が加わり、更

に「那賀町内7小学校教員の外国語活動に対する意識調査」を実施し、外国語活動に対する思いや願いについて把握することにした。また、小中高連携異文化交流祭を継続し、研究の途中経過報告としての中間発表会（公開授業&講演）を開催し、多くの方から広く意見をいただく機会を設けた。

5. 研究の実際

(1) 小学校外国語活動

指定を受ける前の2008年度までは、相生小学校では学校裁量の時間や総合的な学習の時間などを利用し、週1度のALTの訪問に合わせた英語活動のスタイルをとっていた。いわゆる英語の歌やゲームを楽しむ活動に頼ることが多く、単発の授業にならざるを得ない状況であった。小学校児童へのアンケートの結果からも、2008年度までの英語活動に対してマイナスの感想を持つ児童も少なくないことがわかった。表1は、2008年度までの英語活動に対する児童の感想である。

表1 2008年度までの活動の感想

○みんなでゲームをするのが楽しかった。
●英語があまりわからず、話すことが難しかった。
●何を言っているのかわからなかった。
●歌を歌いたいのに、英語がわからなかった。

2009年度より全学年で外国語活動を進めるにあたって、高学年には『英語ノート』などの補助資料が配付されていたが、低学年、中学年に関しては市販の教材やカリキュラムも少なく、低・中・高学年の系統性を考慮したカリキュラム開発は一からのスタートとなった。

また、学級担任が自信を持って取り組むことができる授業を考えると、何よりも児童のことをよく知り、他教科・他領域も全て把握している担任の良さを生かしたものである必要があると考えた。そこで、まずは『英語ノート』を中心とした高学年カリキュラムを作成し、それにつながる低・中学年のカリキュラムを考えていくことにした。以下、カリキュラム開発の3つの観点を示す。

①『英語ノート』を中心とした高学年カリキュラム

『英語ノート』は国の一定の基準を示し、外国語活動の指針ともなり得るが、他教科の教科書と同じように全国どこの学校でも使用できるようになっているため、その学校や地域の特性に合わないというデメリットもある。

そこで、『英語ノート』を中心としながらも、他の2つの観点からもカリキュラムを考えていった。

②地域の特性や実情を反映したカリキュラム

那賀郡那賀町にある相生小学校・中学校は、ともに1学年20名前後の小規模校で、へき地準級指定を受けている。高齢化、過疎化が進んではいるが、自分たちの地域に誇りを持ち、情報を発信できる児童・生徒の育成を目指すために、外国語活動にも地域性

を取り入れたいと考えた。

〈地域の実態〉

那賀郡那賀町（旧 鷲敷，相生，上那賀，木沢，木頭）

○面積：694.86 平方 km，9 割が森林

○人口：10,257 人（平成 22 年 11 月現在）

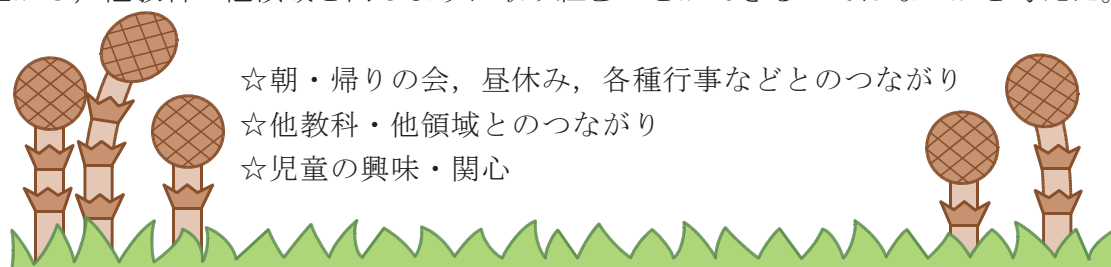
○特産物：おもと，杉，相生晩茶，ゆず，あめご

○観光：吹筒花火，農村舞台，相生森林美術館，高の瀬峡の紅葉

○家庭環境：三世代同居率が多く，古き良き日本の伝統が残る

③他教科・他領域と関連し，学級担任の長所を生かしたカリキュラム

那賀町内 7 小学校の教師対象アンケート結果からも，「英語」を苦手と感じていたり，それゆえに外国語活動も ALT や専科教員が教えれば良いと考えている教師も多く存在することがわかった。確かに，外国語活動の目標が英語の発音や文法事項の理解であれば，「英語」を苦手とする教師にとって外国語活動の指導には苦痛を伴うと考えられる。しかし，外部講師や ALT にはわからない，児童の日常生活や実態，全教科・領域を教える学級担任だからこそわかる・できる外国語活動であれば，これまでの経験や知識を生かし，他教科・他領域と同じように取り組むことができるのではないかと考えた。



☆朝・帰りの会，昼休み，各種行事などとのつながり
☆他教科・他領域とのつながり
☆児童の興味・関心

図 4 学級担任だからわかること

以上の 3 つの観点で取り組んだ高学年カリキュラム開発の手順を図 5 に示す。

2009 年度は，『英語ノート 1』をベースに第 5・6 学年共通のカリキュラムを作成し，同じ活動を展開した。2010 年度は，『英語ノート 2』をベースに第 6 学年用カリキュラムを作成しながら，第 5 学年は昨年度のカリキュラムを見直し，改訂していった。表 2 は，このようにして作成したカリキュラムの一部である。

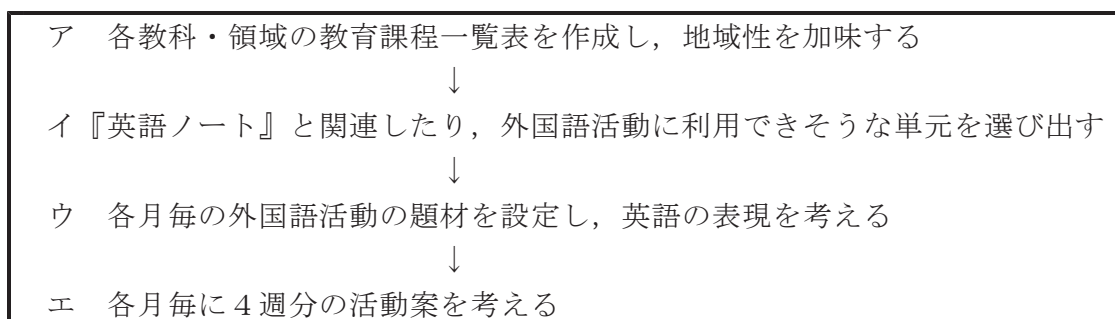


図 5 カリキュラム開発の手順

表2 『英語ノート2』ベースの第6学年カリキュラム（一部抜粋）

	4 月	5 月	6 月	
単元	世界の文化	人権について考えよう	刻を表してみよう	
題材	音楽・食べ物・長さの単位	人権問題・環境問題・点字・手話	文字・数字・月日・曜日	
関連	総合的な学習の時間 「ふるさと相生」	社会 「環境問題」	社会 「江戸時代の暮らし」	
主な英語表現	Where is ~ from? ~ is from ~. How big! ~ is ~ tall.	Where is ~ from? / ~ is from ~. What's this? / It's ~.	What time is it? / It's ~. What letter is this? / It's ~.	
計画画面	第一週		・世界のカレンダー 曜日の配置や祝祭日の違いに気づき、多様な文化の存在を知る。	
	第二週	・世界の音楽 アジアをはじめとする世界の音楽に親しみ、特徴的な楽器の呼び方と演奏の仕方、それぞれの民族音楽の特徴を知る。	・詩人になろう 自分の好きな詩を選び紹介し、日本の俳句・短歌とナーサリー・ライム(マザー・グース)のリズムの違いに気づく。	・日本の「刻」 日本には算用数字の時刻と、昔から伝わる「子、丑」などの刻があることを知り、日本文化の一端に触れる。
	第三週	・世界の茶文化 お茶のルーツやTea Roadについて理解し、アジアを中心とする茶文化に触れる。また、地域特産の相生晩茶の特徴についても理解を深める。	・世界の人権問題 世界のトイレット・ペーパーの普及率や森林伐採について知ることから、世界の人権問題や人権侵害について考える。	・星座占い 自分の星座の言い方を知り、国により星の見方が異なることに気づく。
	第四週	・世界の大小比べ いろいろな長さの単位を知り、世界の大小や建築物の高さ比べをしながら、インチやフィートに親しむ。	・ゴミ0問題 ゴミの種類や分別、処理方法やゴミのゆくえんについて知り、環境問題について考える。	・文字と縦・横書き 文字によって、封筒の宛名などの書き方が異なることに気づく。
英語ノ2	Lesson2		Lesson1, 3, 7	

そして、このカリキュラムを基に、週1回の低・中・高学年別連絡協議会で毎回の指導案を作成・検討した。その場で、教材・教具についても話し合い、次の授業までに準備をする。こうして作成された指導案や教材・教具は専用のスペースにストックし、学年を超えて共有し、他の単元や活動にも活用できるよう心がけている。

外国語活動は「教科」ではなく、道徳や総合的な学習の時間と同じ「領域」であるため、評価は数値によるものではなく文章で表される。その評価に欠かせない「振り返りカード」は、授業の始めに配布され、児童は本日の活動や目標を記入する。そして授業の最後に目標の達成を振り返り、その活動を通して気づいたことや初めて知ったこと、感じたことなどを文章で記述するというスタイルに落ち着いた。この他にも図6のように、観察記録や

ワークシート，児童の作品をポートフォリオのようにストックし，評価に役立てている。

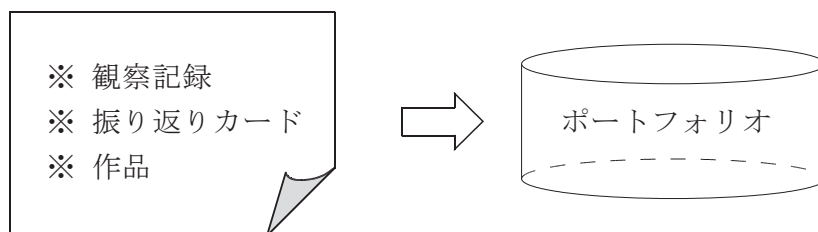


図6 評価の仕方

(2) 中学校英語教育

相生中学校には，2010年度より小学校で外国語活動を経験した生徒が入学してきている。小学校で音声で「聞く・話す」英語に触れてきた生徒に，文字を用いた「読む・書く」活動を提供していくことになった。入学時に実施したアンケートで，中学校英語に対する不安について質問し，その理由を文章で記述させたところ，昨年度までの新入生との大きな差は，図7に示されるように「とても不安」と答えた生徒が一人もいなかったことである。これには，中学校英語教師が小学校での授業に参加してきたため，人的環境の変化が

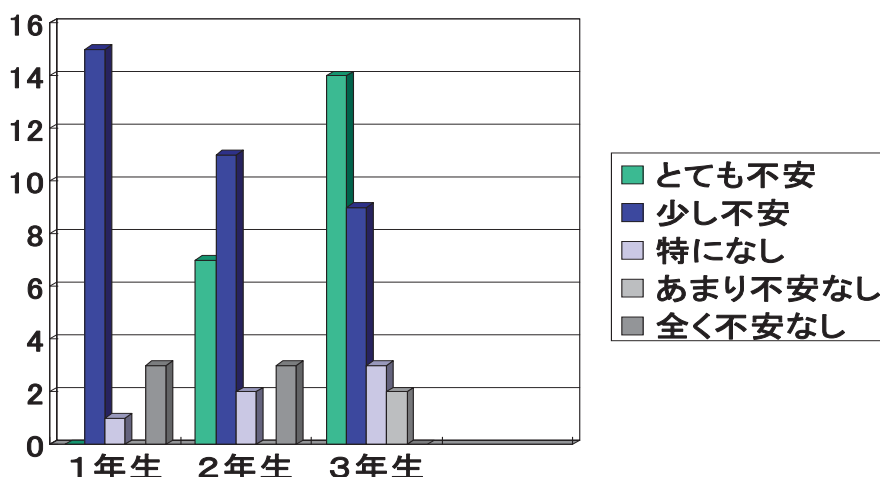


図7 入学時における英語に対する不安

少ないことも影響していると考えられた。しかし，不安を感じる理由を文章で記述させたところ，「単語を覚えなければならぬ」「テストがある」「文を読んだり書いたりすること」に対する不安は根強いことがわかった。

そこで，これらの不安を少しでも軽減することができるよう，まず中学校英語スタート時におけるブリッジング・ユニットの開発に取り組んだ。本校では開隆堂の SUNSHINE ENGLISH COURSE1 を使用しており，入門期の単元として"Let's Start"という単元が設定されている。しかし，指導書に示された時数では音声から文字へのつながりが十分ではないと考え，時間をかけて指導にあたることにした。そして，歌唱を好む学年の特性を生かし，アルファベットのいろいろな歌を用いたり，時には身体表現を取り入れたりしながら，楽しい活動で不安を取り除き，文字のインプットを図った。

2012年度から全面実施される新学習指導要領の中学校英語教育の第2章の3-(2)には，「聞く・話す・読む・書く」の4技能の総合的な育成が明記されている。そこで，ア

ルファベットがある程度定着した頃を見計らってフォニックスなども取り入れ、文字から音を推測する習慣を身につけさせたいと考えた。また、研究授業を繰り返し実施し授業研究を重ね、小学校外国語活動（『英語ノート』）とのつながりを意識した授業展開を模索してきた。

(3) 小中共通

2010年11月26日（金）にはこれまでの本事業の中間発表会を実施し、小学校第2・4・6学年と中学校第1学年の授業を公開した（資料：中間発表会指導案）。那賀町内はもちろん、県下各地から小学校・中学校教師や外国語活動支援講師、行政に関わる方々等、約80名が参加し、助言や貴重な意見をいただくことができた。

さらに、地元那賀高校との中高連携指定を生かし、高校教諭やALTとの協力で年に数回「小中合同異文化交流祭」も実施している。2009年度は10月に「ハロウィン」を、2010年度は4月に「イースター」を紹介し、12月には「クリスマス」、1月には「節分」を実施し、児童・生徒の交流の場を設けている。



テーマを選ぶ際には、欧米文化に偏ることなく日本文化・アジアの文化も意識的に取り入れるよう心がけている。この交流には異年齢構成のグループ活動を多く取り入れているが、中学生は小学生に頼られているという責任感とやり遂げた自信を、また小学生は中学生が英語を話す姿への憧れや期待を感じているようである。

6 研究の成果と今後の課題

2009年度末の小学校外国語活動についてのアンケートでは、表3のような意見が書かれていた。

表3 2009年度の活動の感想

○ゲームだけでなく、いろいろなことをするので楽しい。
○みんなで輪になったり、レベルを上げたりするのが楽しい。
○ゲームをしながら、英語が覚えられるのが楽しい。
○カードを真剣に見て、取るのが楽しい。
○わかりやすく楽しい。
○世界の料理や日本の行事など、日本や外国のことを知ることができた。
○英語を聞き取ることができた時嬉しい。

前出の 2008 年度までの英語活動に対しての感想に比べて、外国語活動を肯定的に捉えている児童が増えたことは喜ばしいことである。

以上のように、本事業の成果としては、小学校外国語活動のカリキュラム、指導案、教材・教具の充実が図れたこと、小学校教員の意識改革が進んだこと、児童の興味・関心の高まりや、中学校入学時における生徒の英語学習に対する不安の軽減があげられる。

一方、今後の課題としては、評価のあり方の研究や地域の文化発信、中学校英語のさらなる変容があげられる。外国語活動や英語教育を通して、異文化の良さや違いに気づくだけでなく、地域性を生かした外国語活動を経験してきた児童・生徒が、自文化に誇りを持ち、発信することができる力をつけることが、中学校英語教育に求められていると感じている。

本研究開発事業に関わっての現在の恵まれた環境は、人的にも物質的にもいつまでも続くものではない。本事業終了後の 2012 年度からの相生小学校の外国語活動が、年度末の異動などに伴うスタッフの入れ替えにもスムーズに対応し、担任主導で実施できるよう研究を続けていきたい。また、その小学校外国語活動との連携を生かした中学校英語教育の充実を図っていきたい。



Active で Interesting/Intellectual な教材を使用し、Open-minded で International な AIOI の児童・生徒の育成を目指して、今後も研究に取り組んでいきたいと考えている。

引用文献

文部科学省（2008）『中学校学習指導要領』（第 2 章第 9 節外国語）京都：東山書房。

第 2 学年学習指導案

Topic: 形であそぼう

Aims: ハッピータウンをつくる活動を通して、色や形の英語表現に慣れ親しむ。

Expressions: square triangle circle ～,please. Thank you.

Plan

Procedure	Activity		
	Students	HRT	ALT
Greetings	<ul style="list-style-type: none"> ○あいさつをする。 ○Hello Song を歌う。 ○I Like Blue を歌う。 ○めあてを確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○楽しい雰囲気をつくる。 ○“Clear Voice!” 	<ul style="list-style-type: none"> ○あいさつをする。 ○Hello. How are you? ○大きな声で元気に歌えるように楽しい雰囲気をつくる。
色・形 ボンゴゲーム	<ul style="list-style-type: none"> ○カードの好きな色・形の上におはじきを置く。 ○Red circle. ○ALT が言った色・形におはじきがあれば取る。 ○おはじきがなくなれば “Bongo!” 	<ul style="list-style-type: none"> ○ボンゴカードとおはじきを配る。 ○ALT の言った表現を復唱させる。 ○同じものがあれば“Yes.”なければ“No.”と言うように指示する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ゲームを進める。 ○ex. Red circle. ○大きな声で発音できたらほめる。
ハッピー タウンを つくろう!	<ul style="list-style-type: none"> ○ボンゴカードの中から好きな形を選び、何に見えるか考え、描く。 ○ex. Dog. ○教室内にある形を使い、身近なものを描く。 ○～,please. ○Thank you. 	<ul style="list-style-type: none"> ○身近なものから考えさせる。 ○遅れ気味の児童を支援する。 ○Here you are. 	<ul style="list-style-type: none"> ○どんなものができているのか児童に聞きながら作品を見て回る。 ○What's this? ○ハッピータウンについての感想を伝え、英語活動の楽しさを味わわせる。
Greetings	<ul style="list-style-type: none"> ○ふり返しカードを記入し、反省をする。 ○Good-bye song を歌う。 ○あいさつをする。 ○See you. 	<ul style="list-style-type: none"> ○欲しい形がはきはきと伝えられたか確認をする。 ○See you. 	<ul style="list-style-type: none"> ○あいさつをする。 ○See you.

第 4 学年学習指導案

Topic: わくわくコンサートへようこそ

Aims: ○いままで学習した表現方法を使って、楽器や曲の紹介をする。

○楽器の音色や演奏の工夫に注意しながら、互いの演奏を聴き合う。

Expressions: What's this? It's a ~. We are ~. We play ~. Please, listen. recorder, castanet triangle, woodblock, drum, tambourine, piano, *kenban* harmonica, maracas

Plan

Procedure	Activity		
	Students	HRT	JTE
Greetings	○あいさつをする。 ○ Seven Steps を歌う。 ○本時のめあてを決める。	○これまでの活動を振り返り、本時は何に気をつけて活動すればいいかを考えさせる。	○課題に対するアドバイスをを行う。
何の楽器でしょう	○いろいろな楽器の言い方を確認する。 It's a tambourine.	○音色から楽器を当てるクイズを出題する。 What's this?	○正しく言えているか確認し、助言を行う。
Warm up	○発表会に必要な言い方の練習をする。 We are group 1. We play ソーラン節. Please, listen.	○意欲的に取り組めるように雰囲気をつくる。 ○正しく言えているか確認し、助言を行う。	○演奏できる楽器や曲の紹介の言い方確かめる。
わくわくコンサートへようこそ	○簡単な英語を使って楽器や曲の紹介をしたり、演奏に関するクイズを出したりしながら演奏会を行う。	○発表会の仕方を確認する。 ○スムーズに活動できるように、全体の様子に気を配り、必要に応じて支援を行う。	○児童が意欲的に取り組めるように、アドバイスする。
Greetings	○振り返りカードを書く。 ○感想を発表する。 ○あいさつをする。	○めあてに視点をむける。 ○児童の感想から本時の活動を振り返る。	○机間巡視をしながら賞賛する。

第 6 学年学習指導案

Topic: イメージカラー

Aims: ①いろいろな色を表す表現に慣れ親しむ。

②相生や世界の文化をイメージカラーで表すことで、それぞれのちがいやよさに気づく。

Expressions: What color is this? / It's ~. What color do you like? / I like ~.

This is ~. Aioi color is ~.

英語ノートとの関連: 英語ノート 2 (Lesson8, 世界に発信する日本の文化) 英語ノート 1 (Lesson5)

Procedure	Activity		
	Students	HRT	AT
Greetings	<ul style="list-style-type: none"> ○あいさつをする。 ○♪"12 Months Of The Year" "We Are The World"を歌う。 ○振り返りカードに目標を書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ○あいさつをする。 Good afternoon. How are you? What's the date today? ○ゆっくり発音し、楽しく歌う。 ○振り返りカードを配り、目標を明確にさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○子どもと一緒にあいさつをする。 Good afternoon. I'm happy, etc. ○遅れ気味な児童のサポートをする。【歌詞カード】 ○全員が記入できるようサポートする。
色・いろいろ	<ul style="list-style-type: none"> ○いろいろな色の言い方について確認する。 It's ~. I like ~. 	<ul style="list-style-type: none"> ○これまでにでてきた色の言い方を確認しながら、好きな色を尋ねる。 What color is this? What color do you like? 【色カード】 	
世界物知りクイズ 	<ul style="list-style-type: none"> ○これまでに学習してきた国(地域)と世界遺産、建築物、食べ物や衣装などの文化を関連させ、その国(地域)のイメージカラーとその理由を簡単に考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ○活動の説明をする。 ○児童に質問する。 What country? What color? 【電子黒板】 【ワークシート】 	<ul style="list-style-type: none"> ○クイズに挑戦する意欲を持たせる。 ○クイズの答えを言う。 ・China: The Great Wall, Panda, チャイドレス ・U.K.: タータンチェック, Big Ben, The Stone Henge ・Egypt: ターバン, Pyramids ・Korea: チマチョゴリ, ヒビソバキムチ
相生発！ イメージカラー・コーディネート	<ul style="list-style-type: none"> ○地域遠足で感じた相生のイメージカラーをグループごとに紹介する。 This is ~. Aioi color is ~. なぜなら、……。 	<ul style="list-style-type: none"> ○活動の説明をする。 ○ATと発表例を見せる。 ○伝えたいことを工夫して発表できるようサポートする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○HRTと発表例を見せる。 ・Tokushima: 藍染め, すだち渦潮, ○英語での表現方法についてサポートをする。
Greetings 	<ul style="list-style-type: none"> ○振り返りカードを記入し、今日の反省をする。 ○あいさつをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○振り返りカードに記入させる。 ○今日のまとめをし、次時の予定について話し、あいさつをする。 See you! 	<ul style="list-style-type: none"> ○カードに記入できているか確認する。 ○子どもと一緒にあいさつをする。 Thank you, see you

中学第 1 学年学習指導案

(1) 単 元 : SUNSHINE ENGLISH COURSE 1

Programs5&6 "Let's Communicate ③"


(2) 本時の目標

序数について正しく理解し、使うことができる。

(3) 英語ノートとの関連

英語ノート 2 : Lesson 3 "When's your birthday?" 「友だちの誕生日を知ろう」 pp.16-23

(4) 展 開

Procedure	Students	JTE T 1	JTE T 2
1.Greetings	Good afternoon. I'm good(happy, fine, great, cold, so-so, full), thank you. It's Sunny(Cloudy, Rainy). It's Friday. It's November 26th.	Good afternoon. How are you? How's the weather? What day is it today? What's the date today?	
2."Welcome to Aioi!"	前時に作った"Our Town"を発表する。	自信を持って取り組ませる。	
3.Activity1 (英語ノートの復習)	"When's your birthday?"の表現を使って、友だちやゲストに誕生日を質問したり答えたりする。	活動の仕方を示す。 聞き取った誕生日をワークシートに書かせる。	
4.Today's Target 「序数のルールを見つけよう」	基数と序数の違いを見つける。 ・ 個人で ・ ペアで ・ グループで	序数の決まりを見つけさせる。 序数の決まりを机間指導を確認する。	機間指導をする。
5.Activity2 「伝統行事」 	①ブランドン (ALT) からのメッセージを読む。 ②ペアで、ブランドンに日本(地域)の伝統行事を紹介する文を書く。	・ 声に出して読ませ、メッセージの内容を確認する。 ・ 書き方の例を示す。 必要があれば、ヒントを与える。	
6.Greetings	今日の授業で学んだこと・気づいたことを各自ノートにまとめ、あいさつをする。	今日の活動を評価し、あいさつをする。	